

令和6年度

産業建設水道常任委員会 行政視察報告

◎視察実施日

令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)

◎参加者

委員長:黒木 英和

副委員長:黒木 克彦

委員:黒木 高広、三樹 喜久代、畝原 幸裕、壺岐紘明

視察の概要

◎視察先及び調査事項

【埼玉県 北本市】

- ・屋外仮設マーケットによる、まちの魅力発信・向上について
(&green market)

【埼玉県 深谷市】

- ・深谷市産業ブランディング推進の取組みについて

【埼玉県 飯能市】

- ・「飯能市立図書館」について

■屋外仮設マーケットによる、まちの魅力発信・向上について(&green market)

視察の概要：埼玉県北本市①

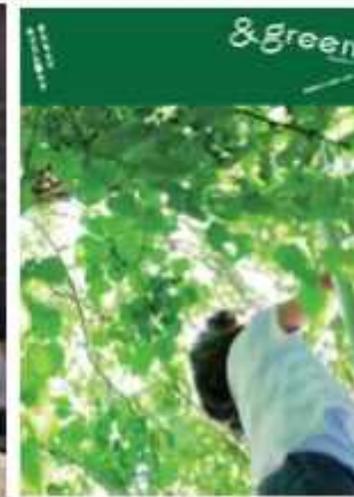
◇北本市では、「緑とともにある暮らしの魅力向上」として「&green」をコンセプトに掲げており、シティプロモーションの一環として、屋外仮設マーケット(&green market)を開催し、地域の農産物や手工芸品を通じて地域の魅力向上に取り組んでいます。

このマーケットは地元生産者と消費者との交流の場として機能し、地域資源を生かした独自の地域色を強調しています。イベントは年々発展し、住民にとって交流と地域の魅力発信の場として重要な役割を果たしています。



&green

豊かな緑に囲まれた、
ゆったりとした街の中で、
あなたらしい暮らしを。



■屋外仮設マーケットによる、まちの魅力発信・向上について(&green market)

視察の概要：埼玉県北本市②

◇このマーケット事業では、主な対象を25～34歳の女性に絞り、市民のまちへの愛着や定住意欲を高めるシティブロモーションを展開しています。

また、「まちへの愛着」という曖昧な部分を数値化する「m-GAP」を全国の自治体で初めて導入し、推奨意欲や参加意欲を調査するアンケートを通じて、市民の地域への愛着度を測定・活用しています。さらに、災害に強く自然豊かな環境が、地域活性化と魅力発信を支えています。



- ① 7月の&green marketの様子です。芝生で思い思いに過ごす来場者の姿が見られます。
- ② 市役所庁舎は、大きな屋根があるので雨天でも開催が可能であることが特長です。
- ③ マーケットを振り返るマーケットの学校では、講師・参加者が当日を振り返りながら課題や印象的なエピソードをもとに話しあう貴重な機会となっています。

■屋外仮設マーケットによる、まちの魅力発信・向上について (&green market)

埼玉県北本市の視察を終えた各委員の所感①

○北本市は災害に強く、豊かな自然環境に恵まれています。特にシティプロモーションの活性化に力を入れ、地域の魅力を発信する取り組みが印象的でした。

○市民が自発的にマーケットを運営する姿は、地域の活性化に寄与しており、北本市の取り組みは他の自治体にとっても参考となるモデルケースだと思います。



■屋外仮設マーケットによる、まちの魅力発信・向上について (&green market)

埼玉県北本市の視察を終えた各委員の所感②

○北本市のシティプロモーションは、地域住民の愛着心を高めている点が特筆すべきところです。
このような取り組みが市民の生活の質向上にも繋がっていると感じました。



今後活用したい施策

【地域資源の活用と交流促進】

市民や訪問者が楽しめるイベントを定期的に行き催し、地域の魅力を発信

【行政と地域の連携によるイベント運営】

市民団体や地元事業者と行政が連携し、安定したイベント開催を支援

【費用対効果の見極め】

効率的かつ持続可能な形でイベントを運営し、市の財政負担と地域活性化のバランスを取る

【マーケットの実施】

市民に愛着をもってもらうため、市役所芝生広場で定期的なマーケットを開催

【mGAP の取り入れ】

自治体の愛着心を測る指標としてmGAPを活用する

■深谷市産業ブランディング推進の取組みについて

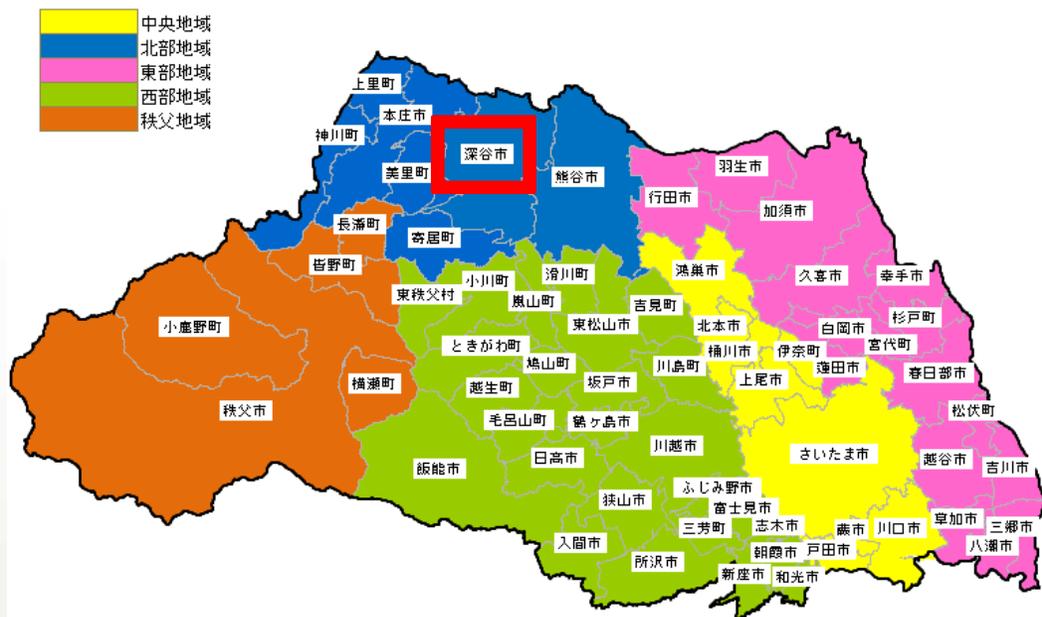
埼玉県深谷市の概要

【人 口】 140,809人 (令和7年1月1日時点)

【世帯数】 63,745世帯 (令和7年1月1日時点)

【面 積】 138.37km²

埼玉県深谷市は、人口約14万人で1955年に市制施行されました。江戸時代には中山道の宿場町として栄え、現在も歴史的な街並みが残っています。深谷駅周辺には商業施設が集まり賑わっています。深谷市は「深谷ねぎ」の産地として有名で、特産品には深谷ねぎを使った料理や加工品が多く、「深谷ねぎ祭り」も開催されます。



■深谷市産業ブランディング推進の取組みについて

視察の概要：埼玉県深谷市①

◇深谷市は、地域経済を活性化し「儲かる農業都市深谷」を目指し、産業ブランディング推進方針を策定しています。

地域特産品やアグリテック企業、地域通貨を活用した戦略を展開しています。

◇「アグリテック集積戦略」では、アグリテックに関するアイデアのコンテスト「アグリテックアワード」を毎年開催し、深谷市に多くの先進的なベンチャー企業や技術を集めたり、交流拠点の設置や現場への支援、情報収集・発信を行っています。



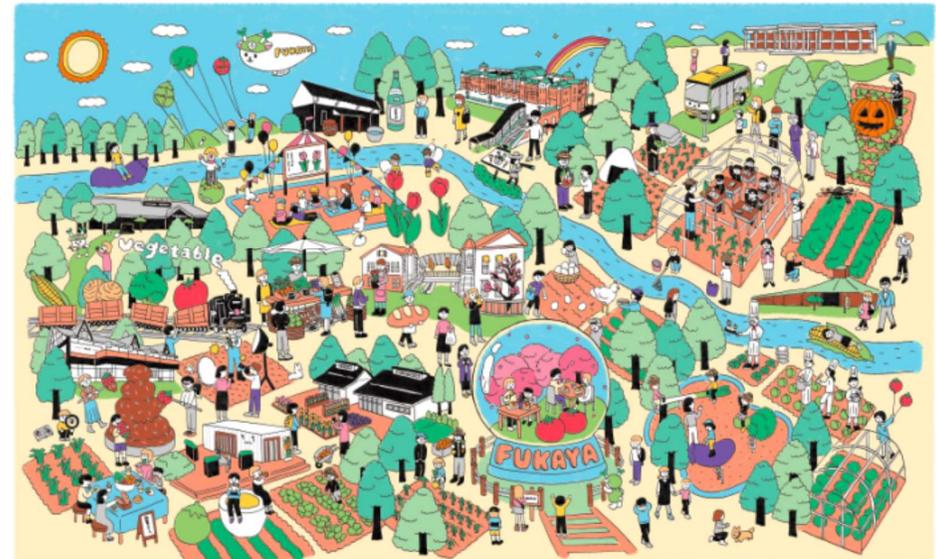
アグリテックとは・・・アグリ(農業)とテクノロジーを組み合わせた造語。ここでは、農業が抱える課題を解決するIoT等の最新技術や、第2次・第3次産業での様々な技術や仕組みのことを広く指します

■深谷市産業ブランディング推進の取組みについて

視察の概要：埼玉県深谷市②

◇「野菜を楽しめるまちづくり戦略」として、「ベジタブルテーマパークフカヤ」のコンセプトのもと、年間を通じて野菜を育て、収穫し味わう体験ができる施設である「ヤサイな仲間たちファーム」をはじめ、農業と観光を組み合わせ合わせた様々な取組みを行っています。

VEGETABLE THEME PARK-FUKAYA-(ベジタブルテーマパーク フカヤ)



◇地域通貨「ネギー」は、利用できる店舗が現在1,000店舗を超え、アカウント数(利用者)も約6万件に上ります。
地域内での消費促進の他にも、ユーザーの増加に伴い、「『選挙の投票率アップ』や『深谷市へのふるさと納税寄附額アップ』でポイント還元率増加」など、地域通貨と抱き合わせた様々なチャレンジを行っています。



■深谷市産業ブランディング推進の取組みについて

埼玉県深谷市の視察を終えた各委員の所感①

○深谷市の地域通貨「ネギー」は、地域内経済の活性化と市民の地域愛着心を高める効果があると感じました。

○アグリテック企業の誘致は、地域産業の競争力を高め、新しい雇用を生み出す良い取り組みだと感じました。



■深谷市産業ブランディング推進の取組みについて

埼玉県深谷市の視察を終えた各委員の所感②

○地域通貨の導入が市民参加を促進し、選挙の投票率向上にもつながった点は特に印象的でした。

この取り組みは他の自治体でも応用可能だと思います。



今後活用したい施策

【産業ブランディング】

地域特産品や伝統産業を活用し、都市としての魅力向上と経済発展を目的としたブランディング戦略

【地域通貨導入】

地域内消費促進と地域課題解決を図るために地域通貨を導入

【アグリテック企業の誘致】

アグリテック企業を誘致し、農業分野のブランディングを推進

【野菜を楽しめるまちづくり】

観光資源としての野菜の活用を進め、人を呼び込む取り組み

【選挙投票率向上】

選挙の投票率が上がると、市民の地域通貨のポイント付与率を上げる施策

■「飯能市立図書館」について

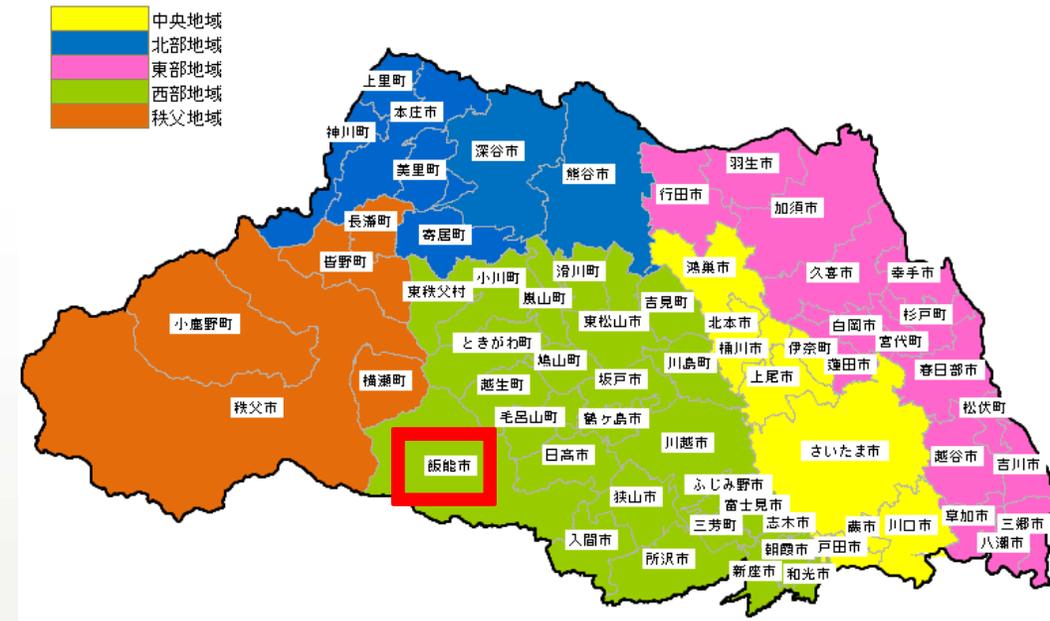
埼玉県飯能市の概要

【人口】 77,963人 (令和7年1月1日現在)

【世帯数】 36,685世帯 (令和7年1月1日現在)

【面積】 193.05km²

埼玉県飯能市は、人口約8万人で1954年に市制施行されました。自然豊かな環境に恵まれ、「天覧山」や「多峯主山」などが観光スポットとして人気です。飯能市は「西川材」の産地として有名で、特産品には木製品や地元農産物を使った加工品があります。「飯能まつり」も開催され、多くの観光客が訪れます。



■「飯能市立図書館」について

視察の概要：埼玉県飯能市①

◇飯能市立図書館は、地元産の西川材をふんだんに使用した木造建築で、温かみのある空間が特徴です。
館内には学習室(社会人用、一般用)、多目的スペース、子ども向けスペース、食事可能ブースなど、多様な利用者のニーズに応えるスペースを提供しています。この設計により、地域住民に親しまれる場となっています。



■「飯能市立図書館」について

視察の概要：埼玉県飯能市②

◇図書館の設計は自然環境との調和を意識しており、大きな窓や開放的な空間が高く評価されています。
また、西川材の活用を通じて地元産業を支援する役割も担い、地域資源を生かしたモデルケースとして注目を集めています。

◇自動貸し出し機、学習席予約システム、貸し出し用タブレット、ICゲート、除菌ボックス、太陽光発電システムなど、多くの設備・技術を導入しているほか、多目的トイレ、エレベーター、大活字本やLLブック、拡大読書器、ポケットクなど、障がい者の方が利用しやすい設備を備えています。



■「飯能市立図書館」について

埼玉県飯能市の視察を終えた各委員の所感①

○飯能市立図書館は地域産材を活用し、地元経済を支援する優れた例であり、図書館の設計が利用者にとって非常に快適な環境を提供していると感じました。

○図書館内の学習室や社会人読書室は、機能性に優れ、特に学生や社会人にとって利用しやすい施設だと思います。



■「飯能市立図書館」について

埼玉県飯能市の視察を終えた各委員の所感②

○木のぬくもりを感じられる空間での読書体験は、利用者にとって大変魅力的であり、地域資源の有効活用モデルケースとして参考になります。



今後活用したい施策

【地元産木材の使用】

図書館建設に地元産木材をふんだんに使用し、温かみのある空間を演出。複合施設の中核に据える。

【多機能スペースの導入】

学習室や子ども向けコーナーなど、多様な利用者ニーズに応える空間設計を取り入れる

【建物の快適性】

空調管理に配慮し、快適な利用環境を提供する設計

【市民に愛される図書館】

地材を活用し、居心地の良いコミュニティ空間の図書館を目指す

ありがとうございました

産業建設水道常任委員会

委員長：黒木 英和
副委員長：黒木 克彦
委員：黒木 高広
三樹 喜久代
畝原 幸裕
壺岐 紘明

